

## 売れる！インターネット活用術＜第4回＞ 実践！SEOで着実にターゲットからのアクセスを得る

株式会社プラム  
代表取締役 竹内幸次（中小企業診断士）

前回は「SEOの基礎知識」を説明しました。今回はSEOの実践編です。

### ターゲットキーワードを決める

SEO（Search Engine Optimization＝検索エンジン最適化）においてはターゲットキーワードの設定がとても重要です。「〇〇というキーワードが検索された時には、検索結果で1位を狙いたい！」と思うことからSEOはスタートします。この「〇〇」というキーワードのことをターゲットキーワードと言います。

**ターゲットキーワード＝自社が検索上位を狙いたいキーワード（組合せを含む）**

例えば、あなたが東京の三軒茶屋で英会話スクールを経営しているケースで考えてみましょう。

自社のことを知らない見込み客が「三軒茶屋（スペース）英会話（スペース）無料体験」というキーワードで検索した際に、自社のホームページが検索結果で1位表示されるようにしたいと考えたとします。その場合の「三軒茶屋 英会話 無料体験」がターゲットキーワードです。

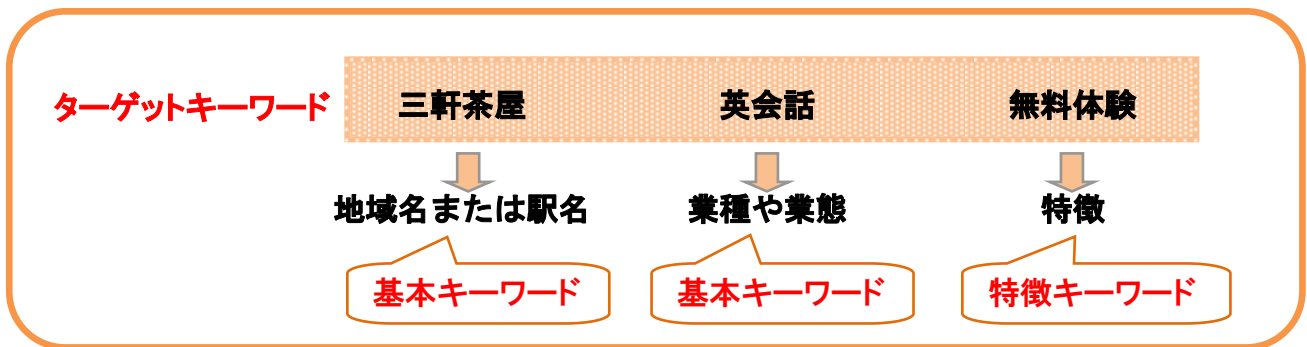
ターゲットキーワードは以下の項目を盛り込んで決めるとよいでしょう。

- 地域名もしくは駅名
- 業種や業態
- 特徴

以前は「英会話」など1つのキーワードだけで検索結果1位を目指した時代もありました。しかし、最近ではホームページ等を閲覧する顧客も検索に慣れてきており、最初の検索から2つないし3つのキーワードを連ねて検索することが一般的です。ですから、2つないし3つのキーワードの組合せ検索をした結果、自社のホームページが上位に表示されることを目標にするのです。

## ターゲットキーワードを決める際の参考サイト

前述のケースでは、「三軒茶屋」や「英会話」は自社の基本的な情報を示す、いわば基本キーワードになります。しかし、「無料体験」は自社の特徴であると同時に、「無料体験」を望む見込み客に自社のホームページを見つけてほしいという意思の表れです。この「無料体験」のような、自社の特徴を表したキーワードのことを特徴キーワードと呼びます。



では、「三軒茶屋 英会話 無料体験」というキーワードの組合せはどれほど検索されているのでしょうか？

これを知るには「フェレットプラス」を使うと便利です。フェレットプラスのSEO/SEMツールの「キーワードチェック」に「英会話」と入力してチェックすると、以下の画面が表示されます（あくまでも原稿執筆時での画面です）。

以下を見ると、「英会話 無料」が月間で4,800回検索されていることが分ります。また、「英会話 口コミ」や「カフェ英会話」、「英会話 教材」よりも検索回数が少ないことも分ります。

キーワード	検索数↓	検索推移	競合サイト	検索エンジン
☆ <a href="#">英会話</a>	69,890	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">E英会話</a>	11,600	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話教材 口コミ</a>	8,700	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">カフェ英会話</a>	7,750	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話 大阪</a>	6,900	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話 横田基地</a>	5,750	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">東村山市 英会話</a>	5,700	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話 教材</a>	5,100	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話 無料</a>	4,800	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>
☆ <a href="#">英会話 上達法</a>	4,800	<a href="#">詳細</a>	<a href="#">チェック</a>	<a href="#">Y</a> <a href="#">G</a> <a href="#">B</a>

出所：フェレットプラス <http://ferret-plus.com/>

このことから、当初、「三軒茶屋 英会話 無料体験」をターゲットキーワードにしようと考えていたあなたは、「三軒茶屋 英会話 教材」の方が効果的だ、と思うかもしれません。検索回数が多い＝顧客のニーズが多いということなのですから。勿論、検索回数が多いからと言って、必ずその言葉をターゲットキーワードに設定する必要はありません。なぜなら、自社のコンセプトに合わない経営をしても成功しないからです。例えば、検索回数が比較的多い「カフェ英会話」をターゲットキーワードにするかどうかは、まさに経営の特徴、コンセプトにより決定します。

### フェレットプラス等を活用して、ターゲットキーワードを決める際の参考にする

ターゲットキーワードを決めたら、第3回でご説明したとおり、タイトルと本文でそのターゲットキーワードを効果的に使用していきます。

### ホームページとビジネスブログ、ツイッター等をリンクする

SEOでもっとも重要なのはターゲットキーワードの設定ですが、次に重要なのが被リンク先です。被リンクはバックリンクとも呼ばれます。

実は、被リンク先はどこでもよいというわけではありません。被リンク先のターゲットキーワードと、自社のターゲットキーワードの関連性が重要です。例えば、パスタの話題が多く掲載されていて、「生パスタ 自家製パスタ」などがターゲットキーワードとなっているホームページから、英会話のホームページがリンクを受けてもあまり有効な被リンクとは言えません。英会話と関連があるターゲットキーワードが数多く書かれたページからリンクを受けることが有効なのです。



上記の例だと、

- 「三軒茶屋」の関連情報が多いページの例…三軒茶屋の地域情報が書かれたページ
  - 「英会話」の関連情報が多いページの例…英会話が大好きな人が書いているブログ
- などからリンクを受けると有効です。

ターゲットキーワードの関連性が高いページを見つけるには「三軒茶屋 英会話」と検索すればいいのですが、通常は、このように検索して見つかったページの多くが同業者の運営するページなのです。同業者は競合先であることも多いため、リンクを受けることは難しいものです。

こうした場合に中小企業が被リンク数を増加させるための取組みの一つとして、自社の社長ブログやスタッフブログからの被リンクがあります。このようなビジネスブログには通常、ターゲットキーワードが数多く散りばめられているので、自社のホームページとのキーワード関連性は高いはずです。

この考えを応用すると、自社が運営するツイッターや、フェイスブックから受けるリンクも自社のホームページからすると有効な被リンク、つまりSEOになるのです。

**自社のホームページは、自社のビジネスブログやツイッターからリンクを受けるとSEOに有効**

一つだけ留意しておきたいことがあります。それはGoogle等の検索エンジンは、「自分から自分へのリンク」をあまり重要視しないということです。ですから、自社のホームページにリンクを与えているブログやツイッターが、同一人物による運営であると認識されると、あまり有効な被リンクとはならないのです。

Googleが無料で提供するサービス「Google ウェブマスターツール」に登録すれば、見込み客があなたのサイトにたどり着いた時に検索したキーワードや、あなたのサイトの被リンク先を教えてください。ホームページとブログが同一人物による運営と認識されないための基本は、「2つのサイトを別々のGoogle ウェブマスターツールアカウントで管理する」ことです。例えば、ホームページはAというアカウントでログインして管理し、ビジネスブログはBというアカウントでログインして管理するとよいでしょう。

**Google ウェブマスターツール⇒ <http://www.google.co.jp/webmasters/edu/quickstartguide/index.html>**

次回のテーマは、「起業家の必須アイテム『ビジネスブログ』を活かしきる」です。